

内容は水産研究課ホームページでも公開しています。
更新は、原則として火曜日夜間におこないます。

徳島県立農林水産総合技術支援センター
水産研究課海洋生産技術担当

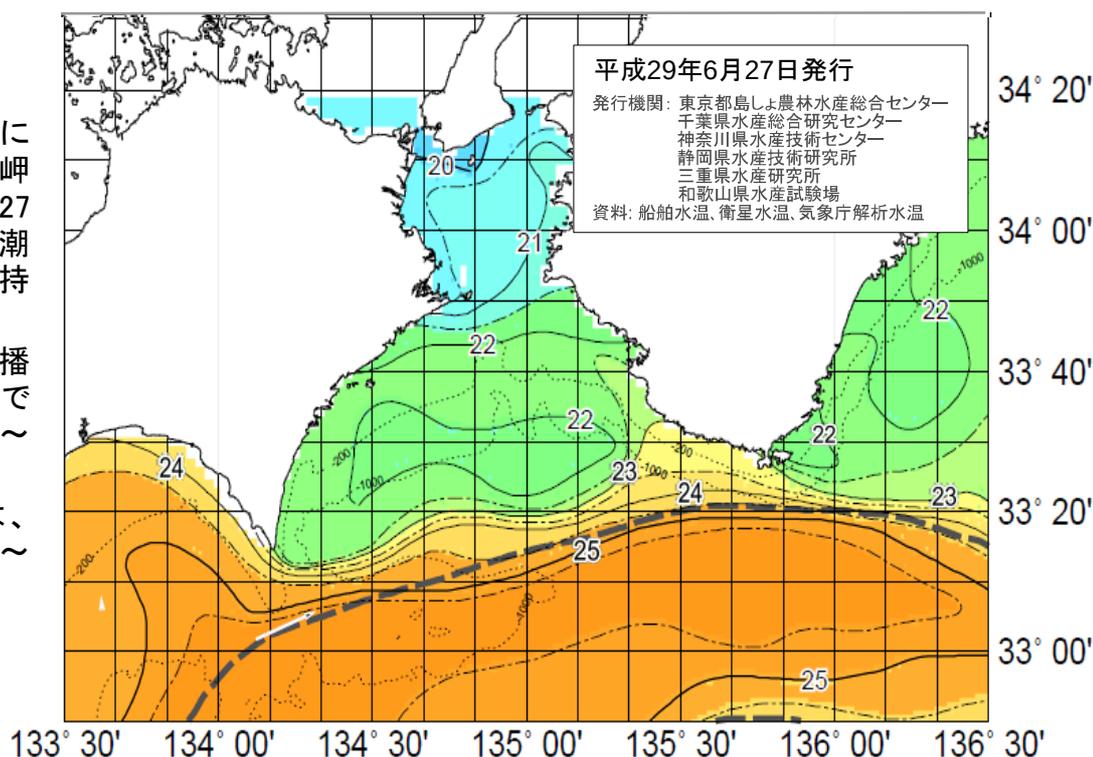
海況

1. 周辺海域の水温

黒潮は、土佐湾沖を北東に進む形となっており、室戸岬沖では離岸傾向で推移し27日時点では「やや離岸」、潮岬沖では「接岸」状態を維持している。

徳島県沿岸の水温は、播磨灘で19℃台、紀伊水道で20℃台、海部沿岸で21℃～22℃台となっている。

黒潮本流の表面水温は、平年並みかやや低い24℃～25℃台となっている。

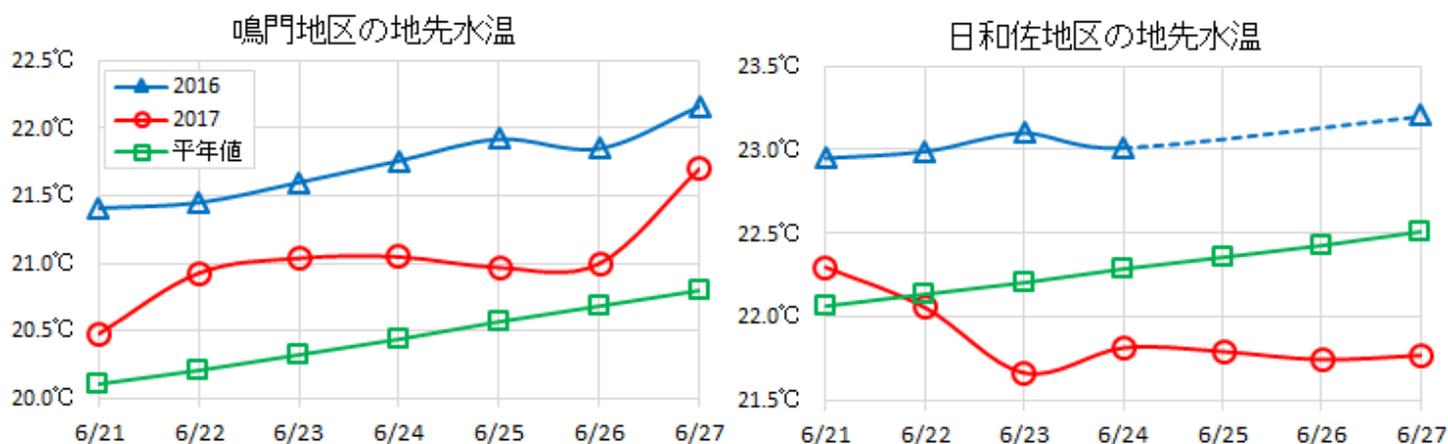


海況図は、平日夕方に水産研究課HPの「地先水温情報」のページに、前日分と当日分を掲載しています。

2. 地先水温(6月21日～6月27日)

鳴門地区の地先水温は、21日には「平年並み」の20.5℃であったが、22日には「やや高め」の21.0℃に上昇し、その後横ばいで推移したため25日には「平年並み」となり、27日に再び「やや高め」の21.7℃に上昇した。

日和佐地区の地先水温は、21日には「平年並み」22.3℃であったが、23日にかけて「やや低め」の21.7℃まで下がり、その後「やや低め」の21.7℃～21.8℃で横ばいで推移した。



※水温の高低 平年並：平年値±0.5℃未満、やや高め/やや低め：平年値±0.5℃以上1.5℃未満
高め/低め：平年値±1.5℃以上2.5℃未満、かなり高め/かなり低め：±2.5℃以上

※平年値 鳴門地区：1981年～2015年の平滑平均値、日和佐地区：1982年～2015年の平滑平均値

3. 週間予報(6月28日～7月4日)

黒潮は、室戸岬沖では「やや離岸」～「著しく離岸」、潮岬沖では「接岸」～「やや離岸」で推移する見込み。

地先水温は、鳴門では「やや高め」の21℃台後半～22℃台、日和佐地区では「やや低め」～「平年並み」の21℃台後半のち22℃台で推移する見込み。

漁況 2017年6月19日～6月25日（旧暦5月25日～閏5月2日）

本格的に梅雨入りし、多くの漁業種類で出漁日・隻数が減った。

1. 紀伊水道(標本漁協数:3)

船びき網では、シラスが増えて169ト水揚げされた。

釣りでは、タチウオが増えて特大主体に0.4ト水揚げされた。

延縄では、ハモが減って6.9ト、タチウオが特大主体に前週並みの0.6ト水揚げされた。

小型定置網では、マアジが小小主体に前週並みの1.2ト水揚げされた。

底びき網では、ハモが前週並みの3.0ト、えそ類が増えて1.1ト水揚げされた。

2. 海部沿岸(標本漁協数:4)

延縄では、アカムツが減って0.9ト水揚げされた。

小型定置網では、いわし類が大きく減ってウルメイワシ主体に1.0ト、マアジが小小主体に前週並みの1.0ト水揚げされた。

大型定置網では、ウルメイワシが大きく増えて大主体に8.6ト、小小主体のマアジが大きく減って3.3ト水揚げされた。表にはないが、マイワシや小型のあじ類、ネブツダイ等が未選別の小魚として1.8ト水揚げされている。

漁獲量集計表(漁獲が0.2ト以上のものを抜粋)

海区	漁業種類	出漁隻数 (のべ)	魚種	漁獲量 (kg)		銘柄	前週比※
				漁獲量	1日1隻あたり 平均漁獲量		
紀伊水道	船びき網	135	シラス	168,750	1,250		↗
	釣り	26	タチウオ	391	15	特大主体	↗
	延縄	63	ハモ	6,863	109		↘
			タチウオ	553	11	特大主体	→
	小型定置網	27	マアジ	1,187	44	小小主体	→
			カワハギ	383	14	大主体	↗
			ハマフエフキ	235	34	大主体	↗
			ころだい類	234	14	大主体	↗
	底びき網	44	ハモ	3,019	69		→
			えそ類	1,127	39		↗↗
海部沿岸	延縄	45	アカムツ	922	20		↘
	小型定置網	14	いわし類	1,035	74	ウルメイワシ主体	↘↘
			マアジ	1,027	35	小小主体	→
			かます類	346	22	小小主体	↗
	大型定置網	4	ウルメイワシ	8,607	2,152	大主体	↗↗
			マアジ	3,320	830	小小主体	↘↘
			シイラ	997	249	小主体	↗
			マルアジ	384	96		→
			イサキ	324	81		↗
			ケンサキイカ	307	77	小小主体	↘
ブリ			261	65	つばす主体	→	
スルメイカ	260	65	小小主体	↗↗			

※ 前週比 200%以上:↗↗ 120-200%:↗ 80-120%:→ 50-80%:↘ 50%未満:↘↘